

## 令和4年度上期「米子市美術館」モニタリング評価表〔令和5年1月〕

施設名	米子市美術館	
施設所管課	経済部文化観光局文化振興課	
指定管理者名	団体名	一般財団法人 米子市文化財団
	所在地	米子市末広町293番地
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
選定方法	公募・ <u>非公募</u>	
施設の設置目的	美術に関する市民の知識及び教養の向上に資するため。	
主な実施事業	郷土にゆかりのある優れた作家の美術作品等及び近代以降の版画作品等収集、保管、研究及び展示。市展、県展、特別企画展、特別共催展、コレクション展（年間2回）、共催展、若手作家支援展、教育普及事業（ミュージアムスクール・年間4回）等	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
<b>I 履行の確認（60点）</b>			
<b>1 施設全般の管理運営に関する業務</b>			
(1) 管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	協定書に定められた人員を配置し、管理体制も明確であった。また、マニュアル等も作成し、感染対策、安全対策をはじめ、危機管理体制、態勢を整え利用者の安全確保に努めた。 資料等確認、立入検査
(2) 職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	指定申請書に基づき、定期的に研修を受講していた。 資料等確認
(3) 利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	特別共催展（田中達也展）、市展、企画展（鈴木康生展）、コレクション展I等を実施。新型コロナウイルス感染症への適切な対策を講じた上で、積極的な広報活動を行うなど利用の拡大に努めた。 資料等確認
<b>2 利用者に関する業務</b>			
(1) 利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	B	特別共催展は、昨年草間展を上回る入場者数を記録したが、市展の入場者数は前年を下回った。 台帳確認 補足資料1
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	サポーター制度、委員会、アンケートを活用し要望を把握。適切に策を講じていた。

			立入検査、資料等確認
3 保守点検並びに清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき、適切に行われていた。 台帳確認、立入調査
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書及び覚書に基づき、適切に実施。コロナ禍の状況のなかで消毒をこまめに行った。 台帳確認
(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき業務を適切に実施していた。 台帳確認、立入調査
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書及び覚書に基づき、適切に実施。展示室内のクロス補修などを必要に応じて行った。 台帳確認、立入調査
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	事業計画書に沿って適切に行われた。 資料確認
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	情報公開の実施体制、管理体制を整備し、個人情報保護方針を作成し個人情報を慎重に取り扱っていた。 資料確認、立入調査
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	施設の現状を正確に把握した上で今後の事業を計画している。 資料確認
<b>II サービスの質の評価 (25点)</b>			
1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	各展覧会やミュージアムスクール等で利用者アンケートを実施。利用者からの否定的な意見はなかった。 資料等確認、立入調査
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B	消毒なども適宜実施するなど、協定書に基づき業務を適切に実施している。 立入調査
3 運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか。 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	サービス水準の向上策を基に、創意工夫のある内容であった。また、利用者への接遇についても適切であった。 資料等確認、立入調査

4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	B	展覧会で「おやこでアートじかん」を設け、親子で楽しんで鑑賞できる時間帯を設定するなどし、創意工夫がみられた。 資料等確認
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	特別共催展や特別企画展では、様々な関連イベントを企画する等、新型コロナウイルス感染症の感染状況を気にしつつ、美術に対する市民の教養等の向上にも積極的に取り組んでいた。 資料等確認

### Ⅲ サービスの安定性の評価 (15点)

1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	事業収支は適切な水準であった。 補足資料2
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	経営状況分析指標は適切であった。 補足資料3
3 団体等の経営状況 (年度ごと)	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4		

<b>【総評 (所管課評価)】</b> 新型コロナウイルス感染症への対策を継続し、特別共催展「田中 達也 展」をはじめ、市展、企画展「鈴木 康生 展」など、全ての展覧会事業を開催。おおむね円滑な管理運営が行われている。	<b>合計点</b> (57) 点 / (95) 点 $\times 100 = (60.00)$ <b>平均点</b> (3.00) 点
--	---

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A (優良) = 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。(5点)

B (良好) = 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。(3点)

C (課題含) = 協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。(1点)

D (要改善) = 協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。(0点)

※特記事項欄は評価を行った確認方法(例: 立入調査、台帳確認、資料等確認)と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

#### 【補足資料】

##### ※1 利用状況

項目	本年度〔令和4年4～9月〕 A	前年度〔令和3年4～9月〕 B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数(注1)	163 (136)	163 (134)	0	100.00 (%)	
施設利用者数	47,872	35,335	12,537	135.48 (%)	特別共催展の増などによる
施設稼働率(注2)	83.4%	82.2%	1.2	101.45 (%)	
事業開催数(注3)	7	5	2	140.00 (%)	事業開催時期による

(注1) ( ) の数字は展示日数

(注2) 施設稼働率 展示日数/開館日数 により算出

(注3) 事業開催数 展示事業開催数

## ※2 事業収支

### (1) 収入

項目	本年度〔令和4年4～9月〕 A	前年度〔令和3年4～9月〕 B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
指定管理料	27,523,000	28,180,000	-657,000	97.66 (%)	
使用料収入	982,340	1,002,288	-19,948	98.00 (%)	
事業収入	5,039,360	6,839,191	-1,799,831	73.68 (%)	夏の事業を縮小したため
補助金等	0	0	0		
雑収入	57,750	111,265	-53,515	51.90 (%)	図録など販売減による
負担金	0	0	0		
合計	33,602,450	36,132,744	-2,530,294	92.99 (%)	

### (2) 支出

項目	本年度〔令和4年4～9月〕 A	前年度〔令和3年4～9月〕 B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	14,145,651	14,328,573	-182,922	98.72 (%)	
施設管理費	7,085,101	6,096,250	988,851	116.22 (%)	
事業費	3,741,422	7,628,480	-3,887,058	49.04 (%)	夏の事業を縮小したため
委託費	1,816,649	2,002,349	-185,700	90.72 (%)	
事務局経費	2,157,000	2,148,000	9,000	100.41 (%)	
合計	28,945,823	32,203,652	-3,257,829	89.88 (%)	

## ※3 経営状況分析指標

項目	本年度〔令和4年4～9月〕 A	前年度〔令和3年4～9月〕 B	対比 A-B、A/B		備考
① 事業収支	2,499,627	3,929,092	-1,429,465	63.61 (%)	上期事業規模による
② 利用料金比率	3.12%	2.77%	0.35	112.63 (%)	
③ 人件費比率	48.86%	44.49%	4.37	109.82 (%)	
④ 外部委託費比率	6.27%	6.21%	0.06	100.96 (%)	
⑤ 利用者当たり管理コスト	604.6	911.3	-306.7	66.34 (%)	上期利用者増加のため
⑥利用者当たり自治体負担コスト	574.9	797.5	-222.6	72.08 (%)	上期集客増加のため

### ①事業収支：(収入－支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていようか確認する。赤字の場合は管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

### ②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、逆に費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況 (年度毎下期に実施し、上期では行いません。)

項目	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	備考
①自己資本比率	44.9%	62.8%	44.8%	55.5%		
②流動比率	191.7%	323.6%	196.3%	257.0%		
③固定長期適合率	11.2%	11.0%	12.6%	10.9%		
④総資産経常利益率	4.4%	-0.5%	-8.1%	8.8%		
評価	(以上の指標を参考に評価する。)					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載。

①自己資本比率

総資産(資産合計)に占める自己資本(純資産合計)の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金(負債合計)に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率 (\%)} = \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払い能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払いを要する負債を「流動負債」と言い、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産(すぐに準備できるお金)の方が多く、支払い能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率 (\%)} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本(純資産合計)と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、または換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本(純資産合計)と長期で調達したお金(固定負債)でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率 (\%)} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産(資産合計)に対して、どれだけ経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

■貸借対照表（例）

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
現金及び預金 400	買掛金 400
受取手形 500	短期借入金 300
有価証券 200	流動負債合計 700
流動資産合計 1,100	固定負債
固定資産	社債 300
建物及び構築物 200	退職給付引当金 200
土地 500	固定負債合計 500
投資有価証券 200	負債合計 1,200
固定資産合計 900	【純資産の部】
資産合計 2,000	資本金 600
	利益剰余金 200
	純資産合計 800
	負債純資産合計 2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

--

6 利用者アンケートの結果

--